

神の祝福への感謝とすべての民の招き

この詩は「伴奏付き」とあるので、エルサレム神殿礼拝で管弦楽器の伴奏付きで歌われたものだろう。8 節なので本文を何度か読んでみよう。67 編を何度か読み、心に留まるのは、イスラエルの民への①「祝福」、②「すべての民」を包むイスラエルの祝福への③「感謝」への招きの 3 つの要素である。また、4 節、6 節は繰り返し（リフレイン）である。67 編の冒頭は「アロンの祝祷」（民数記 6:24-26）の最初の 2 文章を反映している。「主があなたを祝福し、あなたを守られるように。主がみ顔を向けてあなたを照らし、あなたに恵みを与えられるように。」（24-25）この詩は、間接的に神に祈る部分（神が…してくれるように）と直接神に呼ばわる部分（神よ）とが入り混じっている。神の祝福を祈ることから、直接神に呼びかけ、国々の神への賛美を祈願し、最後に、神の民への祝福の願いに至る。「すべての民」（異邦人 3 節）、「諸国の民」が繰り返し登場しているので、国外伝道の詩篇とも言われているらしい。アブラハムが「わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める/祝福の源となるように。あなたを祝福する人をわたしは祝福し/あなたを呪う者をわたしは呪う。地上の氏族はすべてあなたによって祝福に入る。」と主（ヤハウエ）なる神が語られた通りである（創世記 12:2-3）。イスラエル=わたしたち（教会）は、神から選ばれ、憐れまれ、愛されている者たちであるが、それは、全世界がこの神を知り、「感謝」し、畏れるためである。

1. イスラエルに「み顔」を傾ける神（2 節）

わたしたちを「憐れみ」は、ここでは「慈愛・ヘセド」ではなく、「ハーナン」（yəhännēnū）が用いられている。この動詞は、誰かに向かって顔や身体、心を「傾けること」を意味し、そこから、誰かに何かを与えるという意味となった。ここでは継続して願っている動詞形が用いられている。「祝福する」「バーラク」は、基本は地に跪くことで、神を呼び出し、訴えることを意味し、そこから、祝福する、挨拶することを意味するようになった。「祝福」とは神が嘉納し、悦んで（慶んで）くださることである。すでにどこかで指摘したように、「幸運」（lucky, fortunate）でなくとも、「幸福」（happiness）でもなくとも、神から受け入れ、喜ばれている、「祝福されている」ことがあることに触れておいた。神のみ顔の輝きについては十字架に向かう「イエス様」のみ顔が輝いていたことをマタイ 17:2 に関わる説教でも言及したことがある。詩人は、ここで、「神よ、わたしたちに傾き、喜び（祝福し）、そのみ顔をわたしたちの上に輝かせてください」と祈っている。

2. 神の道と救い（3 節）

3 節には「あなたの道」（darkekā, your way 参照使徒言行録 19:9, 23, 22:4 「道」は弓道、剣道など日本人の好みの漢字であり、中国でも「道教」（Taoism）があり、「自然」の真理と人の生き方が混じり合っ

ている天人相関、天人合一である。むろん、ヘブライ語聖書の場合は「被造世界」よりも「律法」との関係が深い。)と「御救い」(あなたの *yəšū'ātekā*) が登場する。地上においてあなたの道が知られること、あなたの救いがすべての(異邦の)民の間で知られることを願っている。ここでは、あらゆる「ゴ-イーム」(2節 *gentile* 異邦人)という言葉が用いられている。イスラエルの人々は「異邦人」(*gentile*)としてイスラエル以外の人々を差別しないではないが、イスラエルが救われるのは、そのことによって、神が国々の審判者であり、すべての民が神に感謝するに至るためである。

3. すべての民 (アーミーム) 4-6 節

4 節以下の「すべての民」は「アーミーム」という用語である。同じ用語ではあるが、5 節の「諸国の民」は、英語では *nations* であろうか。1863 年リンカーン米国大統領のゲティスバーグでの演説: 「government of the people, by the people, for the people」(「人民の、人民による、人民のための政府」), は、ある(日本人が拘り、大好きな)「国民」というより、普遍的な「人民」のことで、*the peoples, all the people(s), the nations* などと翻訳している。5 節に 3 回登場する「アーミーム」を神は、公平に裁き (*tišpōt 'ammîm mišōwr*)、導くと言ひ、自国民だけではなく、全人民 (3 節 *bəkal gōwyim*) に目を向けている。ちなみに米国は *A Nation of the United States of America* であり、正しくは「米国国家連合(合州国)」である

4. 大地は作物を実らせる (7 節)

人は様々な「もの」を造り出すが、大地が育む作物によって、また、海が生み出す海産物(魚を含めて)によって生活できる。大地が作物を実らせること、それらに与って生きることが人にとって具体的な祝福である。*'eres nātānāh yəbūlāh* The earth shall yield her increase マルコ 4:28 「地はひとりでに実を結ばせる」(*automatē he gē karpophore,*) 果たして、地がひとりでに実を結ばせるのかどうかは解釈が難しい。神の祝福が働いて実を結ばせると言いたいのが、早魃などによって実を結ばせない場合は、では、神がそうしたのか! ? という問いの前に立たねばならないだろう。つまり、イスラエルの信仰は、人間と豊かな実りというより、神が中心であり、神と人、神と被造世界の関係が中心であり、神による救いに根差した歴史形成の前提として被造世界の「生命秩序」があるのである。主イエスの言葉で言えば、「何よりもまず、神の国と義を求めなさい。そうすれば、これらのものなみな加えて与えられる。」(マタイ 6:33) それゆえ、神の豊かな祝福は同時に「畏れ」(8 節)として経験される。それこそが豊かさに埋没して神を忘れ、不自由になることから私たちを解放するのである。